

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2020.3) 令和元年度:16-21.

退院後も継続的に経口内服を必要とする乳幼児の母親が父親に求める
支援

中村 彩曜子

退院後も継続的に経口内服を必要とする乳幼児の母親が父親に求める支援

旭川医科大学病院 4階西ナーステーション 中村彩曜子

【目的】

A病院小児科病棟では退院後も継続的に経口内服を必要とする患者がいる。母親は医療者の支援が得られない環境において子どもへの内服に対して様々な思いを抱き、重要他者である父親に求める支援があるのではないかと考えた。しかしながら、先行研究で長期入院による父親の役割変化、母親の内服管理の困難等については明らかにされているが、具体的な父親の内服への関わりや支援、母親のニーズについて焦点を当てた研究はない。

以上から本研究は退院後も経口内服を必要とする乳幼児の母親が父親に求める支援を明らかにし、入院中の患児の両親に対する内服に関する看護介入を検討した。

【方法】

A病院小児科病棟に入院経験があり現在も外来通院し、両親管理の元で経口内服している乳幼児の母親75名を対象とした。無記名記述式の質問紙を郵送で配布・回収した。分析には単純集計と χ^2 検定(期待度数5未満のものはFisher直接確率法)を用いた。調査の実施に当たっては所属の倫理審査委員会の承認を得た。

【結果】

75名中36名から回答が得られた(回収率48%)。児の年齢は0歳3名、1歳3名、2歳7名、3歳3名、4歳6名、5歳10名、6歳4名であった。

[父親に内服介助を希望する母親(以下、希望群とする)]は25名(69%)、実際に[現在父親が内服介助を行っている]のは13名(44%)であった。父親について[入院中の父親の付き添い]は「あり」が19名(53%)、[入院中の父親の内服への関わり]は「あり」が12名(33%)、[父親の子どもの健康に対する関心の程度]は「あり」が33名(92%)、[父親の内服薬についての理解度]は「あり」が28名(78%)であった。

母親について[母親の内服管理に対する思い]は「大変である」は22名(61%)、「悩みがある」が18名(50%)、[内服介助を行うことによる生活の変化]は「あり」が9名(25%)、[父親が内服介助を行うことへの不安]は「あり」が13名(36%)であった。母親が父親に内服介助を希望する理由としては、「子どもについての情報共有をしたい」「母親の負担軽減になるから」「母親の不在時、父に交代して欲しい」等の回答があった。内服介助の希望が無く(以下、非希望群とする)、実際も父親の内服介助がない人の理由としては、「1人で管理した方が忘れない」「一人で確実に服薬させたい」などの意見があった。「母親の方が慣れているので内服介助がスムーズにできる」など父親に内服介助を任せることへの不安に対する意見もあった。

次に希望群25名と非希望群11名に分けて集計した。内服介助が[大変である]と回答した母親は希望群で18名(72%)、非希望群で4名(36%)であった(p 値=0.433)。内服介助に関して[悩みがある]と回答したのは希望群で16名(64%)、非希望群で2名(18%)であった(p 値=.0113)。理由としては「子どもが嫌がるから」、「子どもが可哀そう」「時間がかかる」、「一生飲み続けなければならないのが不安」「薬を飲ませたくない」とう母の悩みがあげられた。

[父親が付き添いをしたことがある]人は希望群で14名(56%)、非希望群で5名(45%)であった。[父親が付き添い中に内服介助をしたことがある]人は希望群で9名(36%)、非希望群で3名(27%)であった。父親の[内服についての理解度がある]と回答した母親は希望群で18名(72%)、非希望群で10名(91%)であった。[内服介助により生活が変化した]と感じている母親は希望群で7名(28%)、非希望群で2名(18%)であり、具体的には「内服にかかる時間が増えた」「出かける時間が減った」などの意見があった。[父親に内服介助を任せる不安がある]と感じている母親は希望群で9名(36%)、非希望群では4名(36%)であり「児が嫌がると内服をあきらめてしまう」「方法や容量、時間など適切に内服させることが

出来ないと思う」などの回答があった。また普段より児の食事や排泄介助など身の回りのケアを行っている父親の数と、内服介助を行っている父親を比較すると、ほぼ同数であることが分かった。

【考察】

約7割の母親が父親に内服介助を求めているが、実際に父親が内服介助しているのは約4割であり、父親に内服介助を求めている母親の約7割が内服に対し大変だと感じていことが明らかとなった。また父親に内服介助を求める母親は、内服介助を求めない母親と比較し、内服に対して悩みを抱いていると共に、内服に関して負担感を抱えていることが言える。その理由として、日常のなかで子どもに内服をさせなくてはならないことによる母親の精神的な負担感が考えられた。

以上より、医療者は母親の状況を把握し、子どもへの内服介助を続けている母親は精神的な負担があることを父親に伝え、入院中に父親に対しても子どもの内服に関わる教育が必要と考える。一方、父親に内服介助に関わってほしくないと考えている母親もいたことから、母親のニーズを踏まえた支援の必要性も示唆された。

退院後も継続的に経口内服を必要とする 乳幼児の母親が父親に求める支援

旭川医科大学病院 4階西ナース
ステーション 中村 彩曜子

日本小児看護学会 COI開示

- ・筆頭者氏名 中村彩曜子
- ・所属 旭川医科大学病院

演題発表に関連し、発表者及びすべての共同発表者には、開示すべきCOI関係にある企業・組織及び団体等はありません。

研究の動機・目的

- ・乳幼児期の患児は発達段階により内服目的を理解することが困難であり気分や内服薬の味によって内服拒否をすることがある。
- ・患児の入院中の付き添いや内服管理は主に母親が行うことが多く、父親へ付き添い交代した際には内服介助が困難になることが多い。



母親が父親に求める支援を明らかにし
入院中の両親への内服に対する看護介入を検討する。

研究方法

- ・研究デザイン: 観察研究(無記名自記式調査)
- ・研究期間: 平成30年8月～平成30年12月
- ・研究対象者: 平成28年4月1日～30年5月31日の間にA病院小児科思春期科病棟に入院経験があり、現在も外来通院し内服している乳幼児の母親

上記の加え

- ①子どもとその両親が同居している
- ②保護者の管理のもと経口から内服している
子どもの親 計75名

研究方法

- ・データ収集:
自作の無記名自記式の質問紙を用いてアンケート調査を実施した。
- ・分析方法:
自由記載以外の項目を単純集計し、
【子どもの内服を父親が行うことを希望するか】
という設問の回答と他の設問で χ^2 検定を行った。

アンケート項目

- ・児について: 年齢 同胞 同居者
- ・父親について: 仕事 付き添い状況 入院中と現在の内服への関わり 子どもの健康に対する関心 内服薬についての理解度
- ・母親について: 仕事、内服介助に対して大変と感じているか、内服介助に対しての悩み(自由記載)、生活の変化(自由記載)、内服介助はどこまで父親に関わってほしいか(自由記載)、父親が内服介助することへの不安(自由記載)

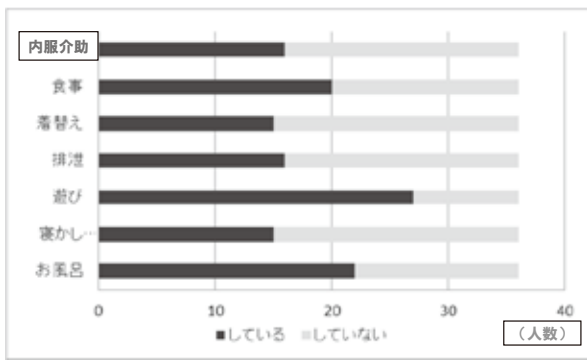
研究方法

- データ収集:
自作の無記名自記式の質問紙を用いてアンケート調査を実施した。
- 分析方法:
自由記載以外の項目を単純集計し、【子どもの内服を父親が行うことを希望するか】という設問の回答と他の設問で χ^2 検定を行った。

結果①属性

- 質問紙は75名に配布し、回収は36名(48%)
- 児の年齢:0歳3名、1歳3名、2歳7名、3歳3名、4歳6名、5歳10名、6歳4名
- 有職率:父親36名(100%)、母親16名(44%)
- 両親以外の同居者あり:3名(祖父母など)
- 同胞あり:27名

結果②父親のケア実施状況



結果③父親への内服介助の希望と実際

	希望する	希望しない
	25名(希望群)	11名(非希望群)
内服介助をしている	13名	3名
内服介助をしていない	12名	8名

結果③ 希望群

	希望する
	25名(希望群)
内服介助をしている	13名
内服介助をしていない	12名

〈自由記載〉

「親として子どもに関わって当たり前」

「子どもについての情報共有をしたい」

「母親の負担軽減になるから」

「母親の不在時に父親に交代してほしい」

結果③ 非希望群

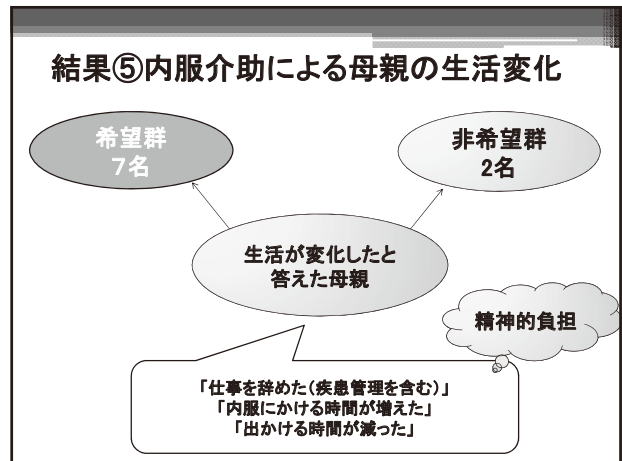
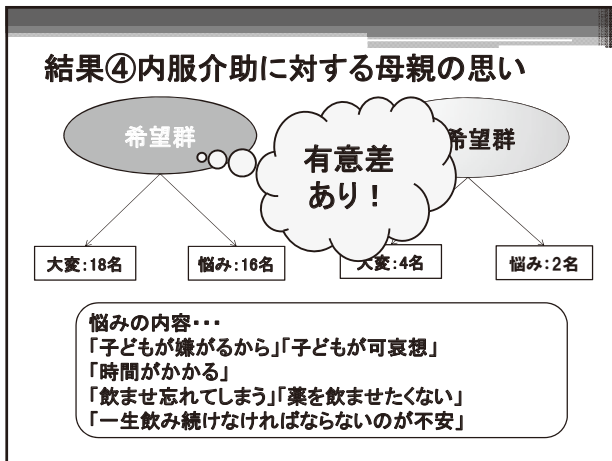
	希望しない
	11名(非希望群)
内服介助をしている	3名
内服介助をしていない	8名

〈自由記載〉

「1人で管理した方が忘れない」

「一人で確実に服薬させたい」

「母親の方が慣れてるので内服介助がスムーズにできる」



結果⑥母親の父親への思い

	希望群25名のうち	非希望群11名のうち
父親が内服についての理解があると答えた母親	18名 (72%)	10名 (91%)
父親に内服介助を任せる不安があると感じている母親	9名 (36%)	4名 (36%)

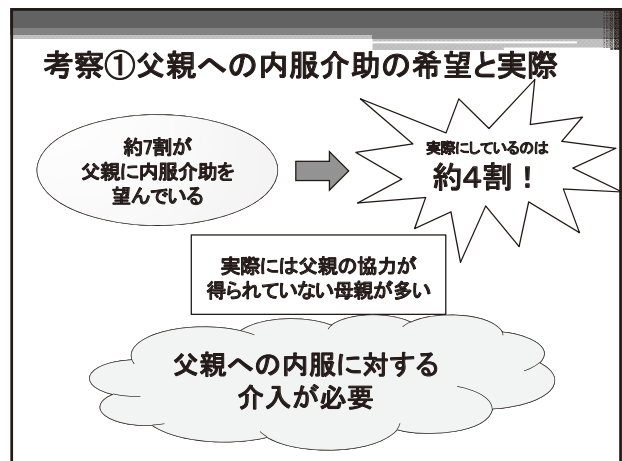
「児が嫌がると内服をあきらめてしまう」「方法や用量、時間など適切に内服させることが出来ないと思う」

結果③内服介助の希望との関連性

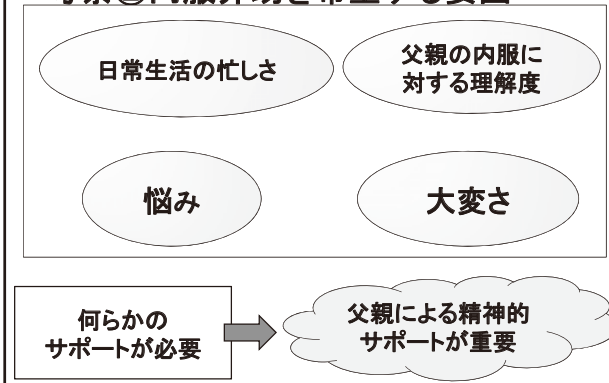
	全母群(n)	父親に内服介助を希望する否		p値
		希望群	非希望群	
現在の父親の内服への関わり				
あり	16	13	3	n.s.
なし	22	12	8	
医師の指導				
あり	26	18	8	n.s.
なし	19	7	9	
母親の仕事				
あり	16	11	5	n.s.
なし	22	14	6	
入院中の父親の付きあい				
あり	19	14	5	n.s.
なし	17	11	6	
入院中の父親の内服への関わり				
あり	12	9	3	n.s.
なし	24	16	8	
父親の子供の健康に対する関心の程度				
あり	23	23	10	n.s.
なし	3	2	1	
父親の内服についての理解度				
あり	28	18	10	n.s.
なし	8	7	1	

結果③内服介助の希望との関連性

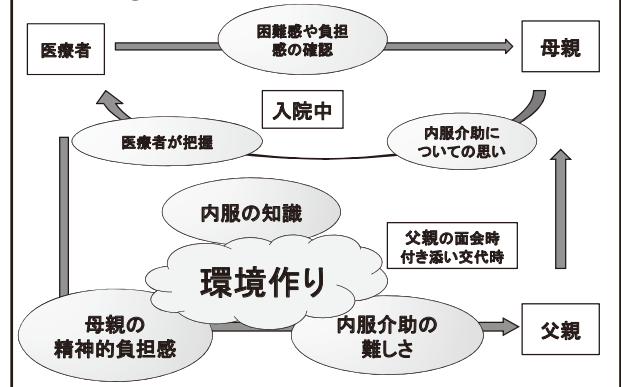
	全母群(n)	父親に内服介助を希望する否		p値
		希望群	非希望群	
母親の内服管理に対する思い				
大変である	22	18	4	0.0433
大変ではない	14	7	7	
母親の内服管理に関する思い				
悩みの多い	18	16	2	0.0110
悩みの少ない	18	9	9	
内服介助を行うことによる生活変化				
あり	9	7	2	n.s.
なし	27	18	9	
父親の内服介助を行うことへの不安				
あり	13	9	4	n.s.
なし	23	18	7	



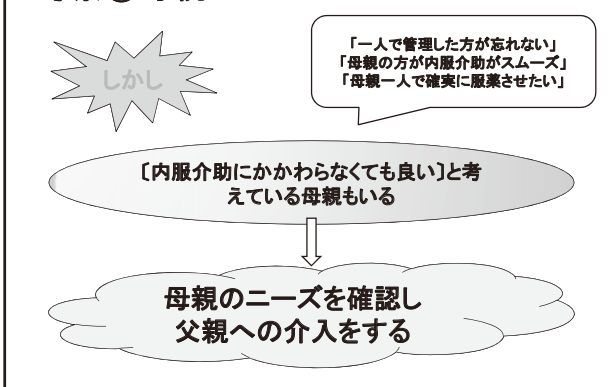
考察②内服介助を希望する要因



考察③看護介入



考察④母親のニーズ



結論

- ・7割の母親が父親に内服介助を求めている
- ・母親は父親に対し精神的サポートも求めている
- ・母親のニーズに合わせた父親への内服介助に対する看護支援が必要